

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970600397		
法人名	有限会社おいてか		
事業所名	グループホームちゃんて		
所在地	奈良県桜井市大福233番の16		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々の行事やレクリエーションに力を入れており、スタッフや御家族様、地域の方やボランティアの方々のお力をお借りして、様々な事にチャレンジし、また、食事や洗濯物に関しても「利用者様と共に」を大切に日々送っています。利用者様の状態が日々変わる中、力を合わせて「安心と安全、楽しい暮らし」を追究し続けております。又、スタッフの離職が少なく、ご利用者にとっての「なじみの関係」が維持継続されているグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームの一番の魅力は「思い立ったら即実行」と利用者がやりたい事や行きたい所があれば、その熱が冷めない内に、早ければ翌日にでもそれを行ってしまうこのスピード。「行った事やした事を頭で覚えてもらおうとは思わない。ただ肉体的感覚として楽しんでくれた事を感じてくれればそれで充分」と利用者だけではなくホーム職員も一緒になって楽しんでいる。今年はホーム創立16周年でそろりフォームしようとしていた矢先の「前回の外部評価の調査を受けて」、外部評価の際にアドバイスを受けたハード面のトイレや浴室等を大改修した。リフォームで一新したハード面と同じように職員の心身も新たに支援に努める決意した心意気の篤い職員が集まる活気あるホームである。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先 www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2970600397-00&ServiceCd=320&Typ

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階		
訪問調査日	平成31年2月28日		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
###	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入所されたご利用者が今までの交流関係や日々の日課を出来る限り継続できるよう、支援を行う。	「ホーム理念」と「安全行動指針」を作り実践に繋げている。今回の外部評価調査において管理者と職員との面接の際にこの項目を尋ねると、スラスラとその文言一言一句を間違わずに語っていた。理念と指針を職員は理解し実践しているところから、周知徹底が図られている。	
###	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の病院、寺院、公民館等と交流を持ち、地域の方々と顔見知りになる機会を作っている。	ホームは自治会や地域との交流も盛んに行うが、特にこの地区の民生委員の方が高齢者に特化せずに地区のみならず地域全体において活動的で、それに引っ張られるような形で民生委員主導で行われるイベントや行事にホームも一緒になって参加している。	
###		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域主催のイベントに参加し、グループホームの取り組みと認知症へのご理解を呼び掛けている。		
###	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加頂いた方々の専門的知識を参考にし、サービス向上に生かしている	今年度の運営推進会議は市職員、民生委員、利用者家族の参加を得て年2回行った。「来年度の会議の開催を年6回を希望する」と伝えたとホームは「いきなりその数字を達成するのは難しい」との事であった。	運営推進会議は「いきなりの年6回の開催が難しい」との事であり、開催目標回数を挙げて頂くと「次年度は4回の開催を目指す」との回答を得た。次年度は目標と掲げた「年4回の開催」を期待する。
###	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者ととの連絡を深めるため、月に一度手紙とホームの月刊誌を届けている。	利用者の介護保険申請等に介護保険課、生活保護の利用者の受け入れのため保護課との連携を強化している。また市からの要請で災害時には被災者をホームに受け入れる等の協力関係を築いている。	
###	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にて身体拘束をしないケアをテーマに職員全員で話し合う。又、月に一度の定例会議でも見直しを行う	一番気をつけている事は言葉の拘束。また重度化による寝かせきりや虐待等の施設特有の拘束についても気をつけている。研修は現場職員が輪番でみんなの前で発表者(教官)となり知識を身につけてもらう「教官教育」を行っている。	
###		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて虐待の防止をテーマに社内研修を行う。又、月に一度の定例会議でも見直しを行う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
###	○	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて権利庇護をテーマに社内研修を行う。又、月に一度の定例会議でも見直しを行う		
###	○	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	体験入所していただき、ご本人、ご家族との十分なご理解と納得を得てからのご契約としている		
###	(6) ○	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の要望や意見は定例会議で話し合い、可能であれば実践を行い、運営に反映させている。	家族会はないが、ホーム職員が家族の来所の際に話を聴いたり、また管理者は電話やラインで絶えず連絡を取り合い、意見を聴いている。それらの意見を会議で話し合い運営に活かしている。	
###	(7) ○	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議や、食事会を開き、話し合う場を設けている	利用者がこのホームの主人公なのは当然だが、支援においては職員が主人公でなければならないと管理者は常に念頭にある。実際にこの調査で管理者と職員との距離が良い意味で短く感じ、職員は好き放題な発言をしていた。	
###	○	就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の余暇を有意義に過ごせるよう、勤務時間や、条件の整備を個別に行っている		
###	○	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間スケジュールに社内研修および社外研修を盛り込み、職員の定期的なリカレント、ブラッシュアップを行う		
###	○	同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互、イベントに参加し合い交流を深める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
###	○	初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、しっかり時間をかけて、ご本人の安心を確保していく。スタッフは守秘義務のもと、ご本人の環境や状況、性格等、情報を共有しよりよい関係作りにも励む		
###	○	初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人を前にして言い辛いことなど、面談、電話、時間構わず承る		
###	○	初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談の際にご本人の必要とする介護支援、ご家族が望まれる介護支援を見極め、グループホーム入所が相応しいかどうか、判断により助言を行っている。		
###	○	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の得意分野で日常の役割を担って頂いている。調理、掃除、洗濯をスタッフと共に、リビング、室内の飾りつけを皆様と共に。		
###	○	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が、自由にご本人に会えるよう、24時間面会できる又、絆をより良く維持出来るように、互いに支え合う関係作りを大切にしている。		
###	(8) ○	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が、入所後も会いに来れる、又、会いに行ける関係をサポートしている	馴染みの関係などは家族の来訪時に聴いている。また利用者からは日々の暮らしの中で聴くようにしている。ある宗教を信仰している利用者は毎月お参りに行かれたり、小豆島生まれの利用者が郷土に一度帰りたいと希望しており、ホームは実現に向けて計画を立てている。	
###	○	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、ご利用者同士のコミュニケーションを援助する。		
###	○	関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	交流を続けている。一週間に一度は遊びにきていただけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
###	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で希望や意向を聞き賜っている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の思いなど直接言える利用者からは直接に聴き、言葉でコミュニケーションがとれない方は仕草等から読み取り利用者本位で勘案している。ホームはどんな小さなサインでも見逃さずキャッチし、その意向の実現を目指すためのアンテナを張りめぐらし情報把握に努力している。	
###		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面談の際にご本人、担当の支援専門員から聞き承る		
###		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人日誌と業務日誌にて日々の暮らし方や心身状態の変化を職員が共通認識している		
###	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のケアカンファレンスにてスタッフおよびご家族の意見を聞き検討、参加できないご家族には電話やメール、手紙にて。	利用開始時は、無理がない程度で利用者や家族に多くの職員を配置して情報を把握してケアプランを作成している。前回外部評価の「計画書についての次のステップ」については、様式の改善と視点を変えて取り組んでいる。	
###		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌と業務日誌にて日々の暮らし方や心身状態の変化を職員が共通認識している		
###		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	旅行や美術展示会の開催		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
###	○	地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の寺院や老人会、子供会との連携を行う		
###	(11) ○	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域医療を手掛ける医院との連携	地域医療に力を入れている医療機関の内科医が毎週訪問診療を行っている。歯科医は随時の往診と訪問看護師は月2回訪問し健康管理を行っている。	
###	○	看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携を大切に行っている。		
###	○	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携体制を整え、ご利用者への医療的サービスを十分に行えるようにしている		
###	(12) ○	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体験入所時に当ホームの重度化及び終末期のケアの体制をご説明し、ご理解いただく。又、都度その時が来れば関係者と情報を共有し、一丸となり支援を行っている	重度化や看取りの介護について本人や家族に説明している。重度化した時には、家族の同意書を得て、地域医療に力を注いでいる医師たちが看取りケアの体制をとりサポートしてもらえるので、ホームも心強く看取り支援を行っている。看取りの事例は今まで10数件経験し、今年は1件行った。	
###	○	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にて、看護師や専門職の助言の元、訓練を行っている。		
###	(13) ○	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々に、当施設の避難経路、避難場所を周知いただき、職員は避難訓練を定期的に行っている	避難訓練は9月と2回目の訓練はリフォーム工事をしていた為、年度末に行う予定である。災害についてはスタッフ会議で話し合ってる。運営推進会議は行わないが、地域との連携は密に行い協力体制は取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
###	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修にてプライバシーの確保に対する研修を行っている	利用者一人ひとりの尊厳を傷つけないよう、トイレ誘導や更衣の際の声掛けには特に配慮している。各居室ごとに見守り用のカメラを設置しているが、家族の同意を得た利用者だけを対象に夜間のみカメラによる見守りを行っている。	
###	○	利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はご利用者の希望や自己決定が出来るように支援を行う。食事メニューや衣類の選択、希望など、日常生活で選択を楽しんでいただく		
###	○	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体操の時間で、職員はご利用者と談話しながら、それぞれの今日一日の暮らし方や希望を聞き取る		
###	○	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パーマやカットは美容師の訪問サービスでも楽しむことが出来、日々の生活でもおしゃれを楽しめるように声掛け支援を行っている		
###	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューには出来る限りご利用者の希望されるものを取り入れ調理から配膳も「楽しい話題」としてコミュニケーションを図りながら行う	食事は職員が輪番制で作っている。利用者の意見を聴きメニューに取り入れれたり、時には新聞の折込にクーポン付きのチラシを利用者が見つけ「食べたい」となると、それが食卓に出ることもある。おせち料理も職員の手作りで、利用者に喜ばれている。	
###	○	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日誌、業務日誌を活用し、水分と栄養面を職員全員が把握できるようにしている		
###	○	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、職員がご利用者と一対一で支援を行い、もれ落ちなく汚れを落とせているか徹底して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
###	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表を活用し、それぞれのリズムや時間経過を見計らい、トイレ誘導を行えるように工夫している。	利用者にとって「良く寝て、良く遊び、よく食べる」事が良い排泄に繋がると考えており、また水分摂取管理も重要とし、これらの支援を徹底的に行っている。	
###		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排尿チェック表を活用し、個々の排便が問題なく行われているかチェックしている。又水分量、運動量なども把握、調整を行い、無理なく排泄できるよう心がけている		
###	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	施設の浴槽以外に、温泉へ出かけ入浴を行っている。ご利用者の意向や、季節などによって、入浴時間を変更している	日本人は寝前にお風呂へ入るのが習慣とする人が多く、週2回午後6時半から入浴を行っている。また夏など汗をかきやすい季節は外出後や汗をかいた後に入浴したりと季節によって入浴時間を変更するなど柔軟に対処している。今の季節であれば柚子湯等で入浴を楽しんでいる。	
###		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠時間を日誌により職員は把握。場合により日中のお昼寝、早めの就寝などで調整を行う。「よく働き、よく笑う。」をモットーに充実した日中を過ごしていただく。		
###		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人日誌に各利用者ごとにファイリングされた処方箋と業務日誌にてスタッフは共通認識を行っている。		
###		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意なことや、やりがいを感じれることを、日常生活、集団生活の中で活かす取り組み。		
###	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	温泉、お花見、買い物など、ご利用者様のご希望の場所へ足を運ぶ。その際、ご家族様もご同行いただける場合は、快くおねがいさせて頂いている。	季節ごとの花見や近くの公園等へ日常的に外出しているが、利用者がテレビでイルカの放送を見て、「本物のイルカを見たい」となると、利用者の熱が冷めない内に翌日にでもイルカに会いに水族館に行くなど臨機応変に対応している。「思いついたら即実行」のフットワークの軽さで外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
###	○	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は買い物外出時に一对一の支援のなか、買い物を楽しんでいただく。		
###	○	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の支援の中で、スタッフが相手となり、やり取りを楽しむ機会を作っている。		
###	(19) ○	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生管理者、レクリエーション管理者が中心となり、ご利用者が季節感ある中、快適な生活が送れるように工夫を行う	前回の外部評価調査員のアドバイスにより、今年度トイレ、浴室、洗面室等の水回りのハード面を大改修した結果、利用者に喜ばれ、支援する職員も今までよりもスムーズな支援を行う事が出来、使い心地が良くなったとの報告を聞いた。	
###	○	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	教養空間に3つのテーブルを用意している。おしゃべりテーブル テレビテーブル 一人の時間テーブル		
###	(20) ○	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所決定時より、ご本人ご家族と相談の上、管理者が担当となり使い慣れたものを持ち込ませていただく。その後もレクリエーションの一環で居室の様態替えを楽しむ	備え付けのカーテン、エアコン、ベッドがあり、和室を希望される方にはベッドの代わりに畳を敷きこんでいる。利用者は思い入れのあるものを持ち込んで心地よい居室となっている。利用者の中には、孫の写真を飾り、孫の成長を楽しみにされている方もいる。	
###	○	一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの「ひとりで出来るためのヒント」を各スタッフが考案し安全で自由ある暮らしを提供できるよう努めている		